

エントリーする団体名の名称 相模原市	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 土木部下水道整備課計画班
代表者氏名 相模原市長 加山俊夫	担当課長 山口稔 電話 042-769-8271 ファクス 042-754-1068 E-mail gesui-seibi-2@city.sagamihara.kanagawa.jp
(他薦の場合) 上記団体を推薦する団体の名称	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】
部門名 行政広報 部門	事例名 「広報さがみはら」における下水道特集記事の掲載

事例の概要 (適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい)



特集

マンホールの下に広がる世界

暮らしを支える下水道

下水道は、台所や風呂、トイレなどから出る生活排水や事業所などからの排水を、下水道管を通して下水道処理場まで送り、きれいで安全な状態へと浄化して海や川に戻します。また、雨水を河川に排水するなど、大雨によって発生する浸水被害からまちを守る役割も果たしている、暮らしに欠かせないとても大切な施設です。

市では、昭和42年に公共下水道事業に着手し、急激な人口増加のなか、その整備を最優先に進めてきました。その結果、今では下水道の普及率は95%以上に達しています。

しかし、すでに整備後40年を経過した施設の老朽化や近年の局地的集中豪雨の多発などの課題に対応するため、平成23年に「下水道ビジョン」を策定して下水道のさまざまな課題に取り組みしています。

湖や森林などを有し、水源地として豊かな自然環境と共生する私たちのまち「湘都市 さがみはら」の、下水道の役割と市の取り組みを紹介し、マンホールの下で私たちの暮らしを支える下水道に思いを巡らせておきましょう。

豊かな自然環境を守る
水源地で進める生活排水対策

多くの市民の水がめとして湖などを有する相模原市では、水源地の水質や自然環境を守るための下水道事業を進めています。

○下水道の整備と高度処理型合併浄化施設の設置
水源地で下水道整備を進めるとともに、比較的家数の少ない一部の地域では、個別に市管轄の浄化槽を設置して生活排水対策を進めています。

○農業集排水施設の高度化を推進
緑区佐野の一部では、平成8年から農業集排水施設と呼ばれる小規模処理施設により、生活排水処理を行い湖沼に排水しています。湖のさらなる水質向上に向けて、排水の高度処理化に取り組みしています。



相模原市
相模川流域下水道 左岸幹線
●=ポンプ場の耐震化
水源地域で進める生活排水対策
合流式から分流式に改善中

安心して暮らせるまちをつくる
浸水対策～台陥・グリブ豪雨などに備えて～

急激な都市化に伴い宅地や商業地が増加し、緑地や空地など雨水が浸透できる区域が減少しました。そこに集中的に大雨が降るといった気象条件が増える、雨水が短時間で大量に出る都市型洪水が発生します。このため浸水被害のおそれのある地域から優先的に「雨水管」の整備を進めています。

また、雨水調整池は大雨時などに一時的に雨水をためるとともに、徐々に浸透させるための施設で、公園や駅前広場の地下など市内18か所に設置しています。一部の雨水調整池は、雨天時には公園やスポーツ広場としても利用されています。

さらに、住宅街の建設の際には、雨どいから雨水を集めて中へ浸透させる「雨水浸透ます」の設置や、その後の管理など、市民の皆さんにも浸水対策への協力をお願いしています。

地震対策～ポンプ場や下水管の耐震化～
川島・はなざね地域から出る雨水を河川に下水道処理場へ送るため、市内には7か所の中継ポンプ場があります。市では、これらの耐震化を進めるとともに、下水管の耐震化についても有利の状況等を調査して対策を進めています。

下水道を大切に
下水道が壊れたり詰まったりすると、多くの人が困り、修理にも多額の費用がかかります。危険物や詰まりの原因になるものは流さないよう、皆さんのご協力をお願いします。

○ガリシなどの危険物を流さない
○調理廃棄物や生ゴミの取扱いを正しく
○赤いゴミを流さない

お問い合わせ 下水道整備課 下水道整備課
〒042-769-8271
〒042-754-1068

エントリー事例の特徴 (下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など)

- ・市内一円で実施している下水道事業を平易な文章、イラスト及び写真を使用し、市民生活における下水道の必要性を、わかりやすく示すことができた。
- ・比較的大規模な雨水管の写真を大きく掲載し、普段入ることのできない雨水管内部の様子、管きよの規模や深さを視覚的に伝えることができた。